

# 臨床研究実施についてのお知らせ

大阪市立十三市民病院 整形外科

## 【研究課題名】

プレート単独使用群と、スペーサー付きプレート使用群の Open-door 型頸椎椎弓形成術後における成績比較研究

## 【研究期間】

参加者集積期間：2027年3月31日まで

研究期間：2029年4月30日まで

## 【研究の意義・目的】

頸椎症性脊髄症の重症例に対しては、唯一有効な治療法が手術治療であり、主に頸椎椎弓形成術が行われています。2000年代以降、椎弓形成術に使用する手術材料として、チタン製のプレートが主流となりつつあります。プレートの使用により、以前の手術と比べ手術時間の短縮や出血量の減少につながりました。

近年、スペーサー付きプレートの開発の報告がなされ、2018年より日本でも使用することが出来るようになりました。スペーサー付きプレート使用は、プレート単独使用と比較して破断しにくいという基礎実験データがあります。しかし、神経の通り道の広がり具合は、プレート単独使用の方が良いと予想されます。この新しい手術材料の術後成績が良いのかどうか、まだ分かっていません。

本研究の目的は、頸椎症性脊髄症に対するプレート単独使用の椎弓形成術と、スペーサー付きプレートを使用した椎弓形成術の臨床成績を比較することです。

## 【研究の方法】

当院で2017年以降椎弓形成術を施行された患者様：今までの診療経過や画像診断結果、また今後の診療情報や必要となる画像診断結果を収集し、比較検討を行います。

2020年7月以降に椎弓形成術を施行される患者様：別途説明書を用いて、研究参加へのお願いを致します。

## 【研究組織】

研究代表者 林 和憲

## 【本研究に関する問い合わせ先】

研究実施者 林 和憲

住所 大阪市淀川区野中北2-12-27

電話 06-6150-8000